

平成 26 年度（2014 年度）日韓共同理工系学部留学生事業協議会 報告

1. 主催 : 北海道大学
2. 日時 : 2014 年 6 月 27 日（金） 13:00-17:00
3. 場所 : 北海道大学学術交流会館
4. 出席者 : 工学研究科 寺井智之 講師  
学生交流推進課 齋藤美佐緒 係員、八幡美穂 係員  
国際教育交流センター 村岡貴子 教授、西村謙一 准教授
5. プログラム : 別紙資料の通り
6. 全体討議における主要なテーマ  
以下の 3 点から全体討議が行われた。

- (1) 配置実績の少ない大学への学生配置に関する問題
- (2) 理工系以外の分野への事業拡大に関する問題
- (3) 予備教育期間中の成績不良者の進学可否に関する問題

(1) 配置実績の少ない大学への学生配置に関する問題

- 1) これまでの学生配置実績の少ないある大学より、配置可能性が見込めないのであれば本事業からの撤退も視野に入れざるを得ず、文部科学省の配置計画等について確認したい旨の発言があった。
- 2) これに関して、本年 4 月にソウルで実施された配置実績の少ない 3 大学の説明会についての紹介があり、地方大学の理工系教育の質は大規模大学のそれと遜色がないこと等、地方大学の利点を粘り強く PR することの重要性が指摘された。
- 3) 文部科学省からは、各大学への配置人数の上限をこれまでの 7 名から 5 名にし、あわせて最低配置人数を明確化するなどして、より多くの大学に学生が配置されるような措置を検討していきたい旨の説明があった。

(2) 理工系以外の分野への事業拡大に関する問題

- 1) これまで理工系に限定されていた分野を文科系へも拡大する予定の有無について質問があった。
- 2) 文部科学省より、第二次期間中には拡大予定はないものの、第三次には拡大の可能性をさぐることも検討している旨説明があった。ただし、同省としては、分野拡大よりも留学生事業の双方向化により関心があること、分野拡大にあたっては一般の国費学部留学生事業との違いをどのように明確化するか等の課題があることもあわせて指摘された。
- 3) 上記議論に関して、本学の寺井講師より、文系・理系別の予備教育の実施方法等の課題があることが指摘された。
- 4) 日本側から、日本語能力とともに、遅刻や欠席の問題を含む学習態度についても広く事例が紹

介された。韓国側からは、今期第2次第4期の学生への予備教育では一層指導を強化した結果、現状では昨年度のような問題はかなり減少しているとの報告があった。

### (3) 予備教育期間中の成績不良者の進学可否に関する問題

- 1) 予備教育期間中の修学態度に問題があって予備教育を修了できない学生への対処について問題提起がなされた。
- 2) 北海道大学より、予備教育期間中の成績管理および本事業学生の問題案件への対応について紹介があった。同大学では、予備教育を修了できない学生については学部教育課程への進学を許可しないことを学則に明記して以降、全ての学生が予備教育を予定通りに修了するようになったとのこと。
- 3) いくつかの大学での対応事例の紹介が行われ、本学についても村岡教授より受入学部担当教員と本センター教員との間の緊密な連携によって対応している旨紹介した。
- 4) 文部科学省より、予備教育期間中の成績不良者については学部への進学を認めない対応が可能であること、ただし進学を不許可にする場合には当該学生に対する丁寧なフォローを求めること等について説明があった。また、学部進学後については、一般の学部留学生事業と同様、留年した場合には奨学金を止める対応を求める旨説明があった。

### 7. その他：次年度以降の当番校

当番校は、ブロックごとに地区を分けて担当することとし、2015年度は筑波大学、2016年度は千葉大学が担当することが予定されている。

以上



日韓共同理工系学部留学生事業協議会の様子：金重燮・慶熙大学校国際教育院院長の講演